「ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん」

おいでプッテ、わしのくにへいこう。
ブルーベリーがじゅくしているよ

Elsa Beskov

夢見る力が育つとき

～エルサ・ベスコフの世界～

ベスコフの作品の根底にある大きな二つのテーマ。それは自然と家族です。特に初期の作品に於いてベスコフは、自分の6人の息子をモデルにしながら、自然の中でのファンタジーを繰り返し描き、自然の尊さを伝えています。ベスコフにとって自然は「スウェーデンそのもの」であり、全ての子どもたちがコケや樹皮、果実などを愛するようになることが、彼女の強い願いでした。

「ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん」は1901年に出版され、ベスコフの出世作となった作品です。おかあさんの誕生日の贈り物にしようと、森へブルーベリーとこけももを摘みに行ったプッテ。一つも見つけられずに泣いていると、小人のおじいさんが現れます。そして、おじいさんの魔法で小さくなったプッテは、森でさまざまな経験をします。

ブルーベリー森の7人の男の子、こけももかあさんの5人の女の子…母として子どもの可愛らしさを充分に知っていたベスコフが描く子どもたちの表情は、生き生きと力強く、優しさに溢れています。涙を流していたプッテは森での時間を過ごすうちに、笑顔へと変わっていきます。自然とともにある時、子どもたちはこのようにしあわせな表情になるのだと、どのページを見ても思わされます。

もう一点、この絵本を読む楽しみに、ページの四隅をはじめとして随所に描かれた森の動植物の存在があります。クモ、トカゲ、チョウ、ハチ、イモ虫…ベスコフはたくさんの昆虫や小動物、花や果実でページを飾りました。物語の詩的な美しさをより一層深く印象付けてくれるこれらの装飾は、驚くほど写実的で、繊細に描かれており、ページをめくるごとにじっくりと見入ってしまうほどです。

愛してやまないスウェーデンの自然。その真ん中に子どもを置き、物語を描いたエルサ・ベスコフ。彼女の存在は、後に登場する作家たちにも大きな影響を与えることとなります。

※エルサ・ベスコフ作・絵 小野寺百合子訳「ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん」（福音館書店刊）

エルサ・ベスコフ

1874年ストックホルム生まれ。小学校の絵画教師を務めた後、絵本や児童書の挿絵を描く。1952年、子どもの本に対するスウェーデンの最高賞、ニルス・ホルゲション賞を受賞。1958年には彼女の業績を讃え、スウェーデン図書館協会にてエルサ・ベスコフ賞が創立された。

監修：齋藤惇夫

作家・児童文学者。福音館書店の専務取締役（編集責任者）として子どもの本の編集に携わり、2000年に退社、創作活動に専念。著書に『グリックの冒険』（岩波書店・日本児童文学者協会新人賞受賞）、『冒険者たち』（岩波書店・国際アンデルセン賞優良作品賞受賞）、『ガンバとカワウソの冒険』（岩波書店・野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞優良作品賞受賞）、『哲夫の春休み』（岩波書店）などがある。

PRESENT

今回ご紹介したベスコフの絵本を3名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のコミュニケーションカードまたは郵便はがきに、賞品名・住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、ご応募ください（9月15日消印有効）。郵便はがきでご応募の場合は P.26の「お便り募集」の宛先までお願いいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。